

考えてみませんか 障がいのこと 共に生きる社会のこと

12月3日～9日は障害者週間
 圖福祉課福祉係
 ☎ 63-1406 FAX 62-2881



地球にも人にも優しい 公共交通機関をご活用ください

圖政策企画課政策経営室
 ☎ 63-1273

コミュニケーションボードを知っていますか？

コミュニケーションボードとはコミュニケーションが苦手な知的障がい者や発達障がい者と周囲の人たちを言葉に代わってつなぐものです。視覚的に認識できるように、絵や記号を用いています。このボードを使うことで、円滑なコミュニケーションができるようになります。

利用する場面や場所に依りて、コミュニケーションボードには「お店用」「警察用」「病院用」の3種類があります。荒尾市内の医療機関や店舗などに配布していますので、ご活用ください。障がいのある人もない人も共に安心して暮らすことができるよう、理解とサポートをお願いします。

●コミュニケーションボードのイラスト例

- さがしています (I'm looking for)
- いくらですか？ (How much?)
- でんわしてください (Please call)
- わかりません (I don't understand)
- てつだってください (Please help me)
- はい (Yes)
- いいえ (No)
- トイレ (Restroom)



▲コミュニケーションボード

公共交通の現状

平成25年10月、バス路線を分かりやすく、効率的にするため、市内全てのバスの発着点をあらおシティモール（バスセンター）に変更するなど大幅な再編を行いました。同時に、平井地区・府本地区には路線バスの代わりに乗合タクシーを導入しました。

その結果、路線バスは運行回数を減らすことなく、実走キロ数を5.6%削減し、乗車数は5.2%増加しました。しかし、平井地区・府本地区の乗合タクシーの利用者はまだまだ少ない状況です。

●路線バス再編前と再編後の比較表（平井・府本地区除く）

	平成24年10月 ～平成25年9月	平成25年10月 ～平成26年9月	前年比
乗車延人員	334,752人	352,295人	+5.2%
実走キロ数	619,848km	585,088km	-5.6%
運行回数	42,953回	43,367回	+0.9%

●乗合タクシー利用者数（平成25年10月～平成26年9月）

	延べ利用者数
あいのり平井号	4,026人
あいのり府本号	2,260人

地球にも人にも優しい公共交通機関



自家用車と比べ、公共交通機関は環境にも健康にも優しい乗り物です。電車やバスを利用すると、さまざまな効果も期待できます。

【期待される効果】

- ① 二酸化炭素の排出量が減少する。
- ② バス停や駅まで歩くと、運動不足が解消される。
- ③ バス停や駅周辺に人が集まるので、まちに活気が出る。
- ④ まちを走る自動車が減り、渋滞・事故が抑制される。

Interview



荒尾市手をつなぐ育成会
 会長 藤岡睦子さん

障がい者が安心して地域で暮らせるように、荒尾市手をつなぐ育成会と荒尾市でコミュニケーションボードを作成しました。市内の警察署、病院や商店などを中心に配布しています。配布先には「以前、知的障がい者への対応の仕方が分からず困ったので、ありがたい」、「イラスト入りで分かりやすい」、「知的障がい者だけでなく、外国人、認知症や耳の不自由な人などいろいろな人が活用できる」と、うれしい反響をいただきました。

コミュニケーションボードの活用が広がり、今以上に、荒尾市が障がい者に温かいまちになればと思います。

※荒尾市手をつなぐ育成会…知的障がい者とその家族や支援者の団体。

みんなで公共交通を守ろう

公共交通の利用者が減少すると、サービスの低下（減便など）につながり、さらに利用者が減少するという悪循環に陥ります。最終的には路線が廃止に追い込まれることにもなりかねません。

いざ利用しようと思ったとき、「公共交通機関がない」という事態を避けるためにも、ぜひ、公共交通機関をご活用ください。みんなで公共交通を守っていきましょう。

